



## 伝統や文化を見つめなおす

現在、世界から注目を集める日本らしさや日本人のよさは、人々や郷土の営みにおいて生まれ、歴史的な経過の中で脈々と受け継がれてきた伝統や文化の上に成り立っている。さらにこの伝統や文化は、古くから伝えられるものに限らず、現在においてその価値を認められたものや未来へ連綿と受け継がれ生き続けていくものでもある。今を生きる私達も様々な伝統や文化の中に生き、未来へと継承する役割を担っている。しかし、多くの伝統や文化は自然に生活に溶け込み、普段の生活の中でそれらに着目する機会は多くない。それらに目を向け、見直していくことは、単に伝統や文化について理解するだけにとどまらず、自分たちのよさや魅力に改めて気づき、日本人として自信や誇りをもつことにつながる。

# 研究の概要

## 国境を越えて求められる力

グローバル化が言われて久しい今日、異なる文化をもつ人々と協働し新しい価値を生み出していく力の育成が叫ばれている。本市においても来年度よりグローバル・スタディ科が新設され、英語を通じたコミュニケーション能力の育成に一層力が入られることとなった。一方で様々な人々の集まる国際社会において、自分と異なる文化や歴史に敬意を払うことなしに協力し合うことはできない。日本人が日本や日本人のよさを主張しつつ、国際社会に貢献していくためには、高いコミュニケーション能力と同時に、文化的な差異を認識し受容する力も重要である。そして、この文化的差異の受容の土台となるのが、自国や郷土の伝統や文化への深い理解と尊重する態度である。我が国の伝統や文化に関する教育を充実させることは、ひいては今国境を越えて求められる力の育成につながるものだと考えられる。



## 生活様式の変化

近年の情報化や価値観の多様化などに伴う生活様式の変化によって、児童が伝統や文化を体験し継承する機会が減ったといわれている。このような状況を受けて先の指導要領改訂では、学校においても伝統や文化に関する教育を充実させていくことが示された。利便性や快適性を尊ぶ生活の中に埋もれる伝統や文化にどのように光を当て、日本の心や日本人のよさを認識させていくのかは今日的な課題であるといえる。

## 主題等の設定

本校は今年創立 60 周年に当たり、「感謝 あふれる笑顔 ふるさと原山小」を合言葉に、記念行事も様々行われる予定となっている。その中で子どもたちが見つめなおす学校の文化や伝統もまた 60 年の歳月をかけて人々の手によって創られ、つながれてきたものである。それを再認識することを通して、ふるさとである原山小と地域をもっと好きになってほしいと考えている。

同じように日本全国にも人々によって大切に継承され、未来へ受け継がれていく伝統や文化が存在する。それらについて関心を高めることや理解を深めることは、日本を好きになることに他ならない。

本校では、これまで述べてきた社会の要請や児童の実態をふまえ、その魅力にふれる機会や価値に改めて気付く場面をさらに充実させていくことで、伝統や文化を見つめる目と自ら親しもうとする態度を育てたいと考え、研究主題を「豊かに考え、生き生きと学ぶ子の育成」、副題を～伝統や文化に親しみながら～と設定し、平成 26・27 年度の 2 年間さいたま市より指定を受け、「我が国の伝統や文化を尊重する教育の充実」について研究に取り組むこととした。

日本各地に数多ある伝統や文化について理解を深め、その価値をとらえることは一朝一夕でできるものではない。児童が「日本の伝統や文化っておもしろい」という思いをもち、今後もそれを原動力に、生涯にわたって自ら伝統や文化にかかわっていくことでよさや価値を理解し、誇りにして欲しいと考える。



目指す学校像

子どもたちが嬉々として登校し充実感に満ちて家路につく学校 <平成27年度重点目標>

- ◆子ども一人ひとりを大切にし、一人ひとりの胸に希望がうまれる教育を推進する。
- ◆学力を分析し指導方法を工夫するとともに「わかった」「できた」と生き生き学ぶ授業づくりを目指す。
- ◆基礎学力の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力をはぐくむ。
- ◆国語科、道徳を主に我が国の伝統や文化の価値に気付く、日本のよさを誇りに思える子どもをはぐくむ。
- ◆中学校加配教員の活用を一層図り、小中一貫性のある学習指導や生徒指導を推進する。
- ◆感謝を伝え、未来に希望をはぐくみ、人とのつながりを深める創立60周年記念活動を展開する。
- ◆保護者、地域と連携し年間を通したあいさつ運動を行い、心と心が響き合う豊かな心をはぐくむ。
- ◆生命を尊重する心や思いやりの心をはぐくみ、いじめ「0」、事故「0」を目指す。
- ◆風通しのよい職場づくりと「迅速」「誠実」をもって対応できる職員組織を構築する。
- ◆安全できれいな教育環境づくりを推進する。
- ◆地域の教育力を一層活用し、家庭、地域と共に子どもたちを育てる原山小ふるさとづくりに努める。

研究主題

豊かに考え、生き生きと学ぶ児童の育成  
～伝統や文化に親しみながら～

目指す児童像 自国の伝統や文化の価値に気付く、誇りに思える子

目指す児童像 低学年

いろいろな伝統や文化に  
親しもうとする子

目指す児童像 高学年

伝統や文化の価値に気付  
き、進んでふれたり大切  
にしたりしようとする子

日本の伝統や文化って  
おもしろい！

「もっと読みたい」

「他にも知りたい」

「自分もつくってみたい」

「使ってみたい」

目指す児童像 中学年

伝統や文化のよさに気付く、  
関心をもつ子

目指す児童像  
なかよし

伝統や文化に親しもうと  
する子

視点1

授業の改善

- ・ 伝統や文化を身近に感じられる  
出会い方の工夫
- ・ 伝統や文化に対する理解を深  
める活動の工夫
- ・ 伝統や文化に親しむ活動の工夫

視点2

校内環境の整備

- ・ 伝統や文化にふれる校内掲示  
の工夫
- ・ 豊かな言葉にふれる校内掲示  
の工夫
- ・ 体験的な学習を振り返る校内  
掲示の工夫

視点3

伝統や文化に  
ふれる機会の充実

- ・ 地域人材の活用
- ・ 各教科学習の関連的な指導
- ・ 体験的な学習の充実  
(きらめきジャパネスクなど)

## 伝統や文化

伝統や文化と一口にいても、その範囲は実に広い。伝統とは、古くから世代を超えて受け継がれてきた思想・風俗・習慣・様式・技術・しきたりなどの事柄であり、文化とは、有形無形を問わず人々が営みを充実向上させる上で創り上げてきたものの全てを指している。つまり、伝統や文化を広くとらえると、今私たちを取り囲んでいる全てに関わることになる。本校では、中でも古くから大切に受け継がれて現在に残る日本らしい文化に焦点を当て研究を進めることとした。人々によって守られていることや今日まで伝えられてきた理由、後世へつなげようとする人々の思いなどを関連付けながら伝統や文化をとらえることで、単に認識するだけではなく愛情や誇りがもてるのではないかと考える。ゲームやアニメなど世界に誇る現代的な文化も様々あるが、本研究では、いわゆる伝統文化を中心に取り扱いながら教育の充実を図っていく。

## 具体的な取組

研究を進めるに当たっては、まず、『日本の伝統や文化っておもしろい!』『もっと読みたい』『他にも知りたい』『自分もつくってみたい』『使ってみよう』などの思いをもてるよう、系統を意識しながら育てたい児童像を定めた。そして、これらを具現化していくために、「授業の改善」「環境の整備」「体験の充実」の3つの視点を設け、伝統文化にふれる機会の充実や魅力や価値に迫ることのできる授業づくりを進めた。また、研究を円滑に進めるために、4つのブロック（低・中・高・なかよしブロック）と3つの専門部（授業研究部、環境整備部、調査記録部）を組織し、それぞれのブロックや部の実践や成果と課題などを持ち寄って共通理解を図りながら研究の深化を図るようにした。

具体的な取組として授業研究部では、日々の学習指導の中で伝統や文化を意識して指導することができるよう、年間指導計画を工夫したり、関連する単元を一覧にしたりしてきた。環境整備部では、伝統文化や伝統的な言語文化に豊かにふれる掲示・コーナーの設置に取り組んだ。これらの授業実践や各部の取組を受け、調査・記録部では、児童にアンケートを実施し、その変容をとらえた。

さらに、本校では伝統文化を見たり聞いたり体験したりしてそのよさを味わう時間を「きらめき☆ジャパネスク」と名付け、積極的に開催してきた。昨年度は、日本舞踊や能、三味線教室などを行い、今年度も地域に残る「原山おはやし会」の皆様を招き、お囃子を聞くや太鼓をたたく、神輿を担ぐなどの体験を行った。他にも、各教科等の学習においても伝統文化にふれる機会を意識し、地域人材の活用を図りながら実際に体験しながらその心にふれる実践を積み重ねてきた。また、本校で行っている土曜チャレンジスクールでも文化・伝統コースを設置し、茶道や謡曲の先生をお招きして伝統文化に親しめる場を設けている。

そして、これらの様々な体験を通して児童が得た感想や考え、思いを授業に反映させる、あるいは各教科の学習の中に体験的な学習を積極的に位置付けるなどの工夫を行い、昨年度は4本の研究授業・研究協議、今年度は2本の研究授業・研究協議を実践し、伝統や文化を尊重する態度の育成に効果的な指導についての検討を重ねてきた。

## 全教育活動を通して

平成26年度は、昔話やことわざなどの伝統的な言語文化に関心を高める授業づくりやかるたなどの伝統文化に関する説明文の学習の工夫を行うなど、国語科・生活単元学習の授業研究を進めてきた。また、体験の充実として他の教科や行事等でも伝統文化に触れる体験をより多く取り入れるようにしてきた。これらの成果をふまえてつつより効果的な教育を実践していくことができるよう、今年度から道徳の授業研究も進めている。学習や行事等を通して感じたことや考えたことなどをもとに、道徳の授業で考えの補充・深化・統合を図ることによって、その価値をより深くとらえたり今後の関わり方について自分の考えをもったりできるようにしたい。

